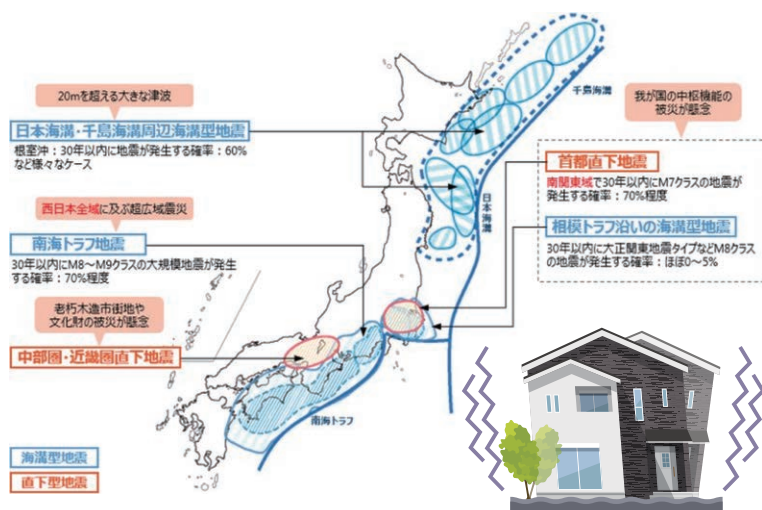


南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝地震など、耐震設計・制振ダンパーでも守れない地震が来る？

今後予想される南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝地震は、熊本地震、能登半島地震同様、耐震強度を数倍超える2段地震。耐震設計、品確法の耐震等級3(標準の1.5倍)では間に合わない可能性が大です。

大量倒壊の熊本地震、能登半島地震から「耐震壁・金物工法の限界」が見えてきます。熊本地震では建物内で加速度が2～3倍に増幅し(筑波大学、境教授地震動分析)、能登半島地震では7階建てビル倒壊で明らかになった、軟弱地盤内で加速度が標準の2.5倍に増幅し(9月1日NHK特集)、大量の倒壊の原因が見えてきました。

木造建物が受ける加速度は耐震基準の10倍以上も有りうるわけで、壁補強、金物補強の限界を超え、摩擦抵抗やバネ応力でエネルギーを消耗させ、慣性力で力を逃がす(達磨落としの原理)「ねこ免震の技術」が必要です。



ねこ免震とは

基礎と土台の間にねこ(基礎と土台の間に挟む部材の総称)を挟んで隙間を設け、床下換気を行う工法をねこ土台といい、家屋の建築に広く用いられています。

現代のねこ土台の主流はプラスチック製のロングタイプで、旧来の様な通気性は無く、気密型ではカビの心配もあります。

ねこ免震パッキンは、旧来の耐久性を取り戻した上に免震機能を付加した特許製品で、それを用いて基礎から土台への揺れの伝わりを小さくすることで新耐震基準を超える大型地震による家屋の倒壊を防ぐ—それがSMRCが提案する「ねこ免震」です。

